

工場進出に伴う水田の工場化が進み、水田面積の狭少化が必然となってくるならば、水田の米作にのみ依存する農業から、野菜、養鶏、酪農、養豚、或は果樹栽培といった種類の集約経営による、特産地形式の方向に進むことが必要となるだろう。

—— 卒論を書くにあたり、地理学の基礎知識の不足を痛感させられた。集まった資料を充分こなせず、果して、地域性が描き出せたか疑問である。

鹿島郡神栖村の地形と土地利用

鈴木 陽子

“地形と土地利用”という地域性を把握する上に最も基本となるテーマを選びはしたが、単に“土地利用”という場合、農業土地利用のみでなく交通、集落、etc. とその広範な範囲に圧倒され、焦点をしぼらず、あれこれ迷っている間に、月日はたち、結局土地利用と言うには余りにもお粗末な調査報告が出来上ってしまい、誠になさげなく思っている次第である。

本論は

第1章 地域の概況

- § 1 地理的位置及び沿革
- § 2 気候 1) 一般気候 2) 特殊気候
- § 3 地形と地質
- § 4 産業と交通

第2章 地形と土地利用

- § 1 地形
 - 1) 地形区分方法
 - 2) 各地形面の記載
- § 2 土地利用
 - 1) 後進的土地利用
 - a. 経営規模
 - b. 専業農家の卓越
 - c. 水田裏作の欠如
 - d. 主要な換金作物
 - e. 不安定な農業経済
 - 2) 特色ある農業景観
 - a. 堀下げ田
 - b. ビニール水田

第3章 土地利用 の集落群別相違

1. 利根川沿岸集落
2. 新田集落
3. 納屋集落
4. 最近砂丘開墾集落

第4章 今後の動向

からなる。

調査地域は、地理的自然条件の影響が大きく人間生活に及ぼしている点、大変興味がある。利根川の分流、常陸川により、他地域より孤立化せしめられ、地域内に於ては、南北に砂丘列が走り、交通網の発達を妨げている。当然の結果として、近代産業がなく、砂質土壌で農業条件に恵まれていないのにもかかわらず、農家率が81%（全国平均48.4%）といかにこの調査地域が後進的であることを物語っている。

地形は、沖積低地、*back marsh*、砂丘、台地を4大別し、更にそれらを10の地形面に分類した。農業土地利用はこれらの地形面と密接に結びついている。土地利用の特色は、経営規模が大きく、甘藷一麦の単純な輪作及び水田の一毛作と、真に典型的な東関東的農業地域である。

第3章は、西田正夫先生の論文を参考にして集落分類を行い、農業センサス、野外観察、聞き込みから、その集落群別特色を現わそうとしたものであるが、データ不足で、極めて不完全である。

1→4と発生年代の古い順で、1のグループは沖積低地に沿って発達した自然発生集落で、歴史は古く、元村と呼ばれている。2群は、江戸享保時代、町人請負制で、砂丘を開墾した新田集落、3は海岸に沿った〇〇浜と呼ばれる村落で、元村及び千葉方面の2,3男が最初地曳網漁業にひかれて定着し、近年近代漁法の発達におされ、漁業が衰え、いわゆる「海を背にする農村」と変化したもの、4のグループは主に第2次大戦後、外地からの引き揚げ者により開拓された集落である。形態は、1, 3が自然発生集落で1は塊村、3は列村、2, 4は計画的発生集落である為、方形の地割、比較的規則正しい家屋分布が特色的である。3, 4の集落の人々は根からの農民でない為、土地とか米に対する執着は1よりも薄く、企業的精神が比較的発達して居り、農業機械の導入率もよく、適地適材主義の傾向がみられる。